

# 令和7年度 山瀬小学校 学校評価報告

## 1 児童アンケート結果・考察(課題)

\*文章中に出てくるパーセンテージの数値は、「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的な回答の合計値です。

\*（一昨年度⇒昨年度⇒本年度）の数値です。（調査対象 児童166名）

(1) 朝食を毎日食べている	91.7 ⇒ 97.1 ⇒ 94.4 %
(2) 朝や人にあつたときに挨拶をしている	92.3 ⇒ 92.9 ⇒ 92.6 %
(3) 学校の決まりを守っているか	93.9 ⇒ 92.4 ⇒ 94.5 %
(7) 家で学校の宿題をしている	87.8 ⇒ 90.6 ⇒ 94.5 %

基本的な生活習慣に関する項目では、本年度も9割以上の児童が肯定的に答えており、比較的良い生活習慣が身につけてきていると考えられる。特に朝食についてはどの学年もほとんどの者がほぼ毎日食べて登校できている。今後も家庭環境等に配慮しつつ、家庭との連携により、毎朝食べる習慣をつけることができるよう継続していきたい。挨拶に関しては、相手に気持ちのよい声を届けられる「よい挨拶ができる学校」を目指して全校で取り組んでいるが、今後も引き続き取り組んでいきたい。家庭学習に関しては、家庭学習の習慣化が進んでいると考えられる。

(4) 家の人と学校の出来事について話をしますか	81.2 ⇒ 78.5 ⇒ 79.0 %
--------------------------	----------------------

約2割の児童が学校の出来事をあまり話していない状況であり、3割近くの児童があまり話をしていない学年もある。その反面、約8割の児童にとっては、学校での経験等が家庭での会話につながっていると考えられる。保護者と児童との相互理解を図る上でも、学校の取組等を知ってもらう上でも、会話は非常に重要である。ホームページでの日々の出来事の紹介や担任からの情報提供など、保護者に話題の提供をすることで家族の会話の機会がもてるよう、今後も進めていきたい。

(9) 学校に行くのは楽しい	81.2 ⇒ 81.3 ⇒ 86.5 %
----------------	----------------------

昨年度より、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」が増加しており、多くの児童にとって学校が居心地のよい場所となっているということがうかがえる。

(5) 失敗を恐れずに挑戦している	84.5 ⇒ 82.5 ⇒ 80.2 %
(6) 自分にはよいところがあると思う	90.1 ⇒ 87.7 ⇒ 86.4 %
(11) 友達と話し合っって学級の決まりを決めている	86.2 ⇒ 88.3 ⇒ 84.6 %
(13) 学級の皆で協力して何かをやり遂げうれしかったことがある	81.2 ⇒ 91.8 ⇒ 88.8 %

自尊感情や自己有用感に関連する項目である。今年度も平均8～9割近い児童が肯定的に答えているもののやや意識の低下が見られる。

全校が一斉に集まったの集会活動などでは、それぞれの学年の立場で協力し、体験を積めたことが、児童の成長にもつながっている。また、学級での話し合い活動を通して、何かを決めたり、何かに取り組んだりする経験が児童の達成感となり、集団の中での自己有用感や友達との絆が育まれていることがわかる。

自分の能力や可能性にチャレンジする機会や、自分に自信が持てるものが見つけられる活動や体験を増やしていけるよう今後も計画を進めていきたい。

(17) いじめ、仲間外しをしないで友達に優しくしている	93.9 ⇒ 97.7 ⇒ 97.6 %
------------------------------	----------------------

児童の普段の行動の中にも優しさを感じる事がよくある。自分の行動をふりかえり、反省できている児童もいる。友達を大切にしようとする意識が高まってきている。

いじめを許さない強い心、思いやりのある心を育むようこれからも人権教育、道徳教育を推進するとともに、一人一人を大切に、支え合える集団となるような仲間づくりを進めたい。

(8) 読書は好きですか	70.7 ⇒ 69.6 ⇒ 64.2 %
--------------	----------------------

学校では毎週末に家庭読書の日を設定し、児童に読書を呼びかけている。山川図書館から借りた本のコーナーを設置してからは、そのコーナーで休み時間に読書をする児童も増えている。

しかし、児童の家庭での過ごし方の中に様々なメディア等に親しむ時間も増えていることから、読書の習慣化を進めるためにも、家庭でのメディア使用の制限や計画的な読書時間の設定など家庭と連携しながら図っていかねばならない。また、デジタルにおける活字を読む時間は増えているとも考えられるため、ペーパーによ

る活字だけを読書ととらえる読書から幅広い読書という考え方の移行も必要ではないかと考えられる。

今年度、冬季休業中に、図書室の床の貼り替えをし、それを機会に本棚や読書スペースの配置換えなども行った。そのためか、わずかながらも利用者が増えている。これからも、子どもたちが利用したくなるような図書室運営をしていきたい。

- (19) 授業の中でわからないことがあったらどうするか (昨年度⇒本年度)  
その場で先生に聞く：29.8⇒36.4% 終わって先生に：9.4⇒9.9%  
友達に：26.9⇒25.3% 家の人に：12.9⇒11.1% 塾：1.8⇒1.9%  
自分で調べる：11.1⇒11.7% そのまま：8.2⇒3.7%

教師に「その場で聞く」や「終わってから聞く」が増えるなど、児童がわかろうと自ら行動できるようになってきている。今後も教師からの声かけや友達との教え合いの時間を取り入れるなど、わからないときに自分がどう行動すれば良いかの方策を身につけさせたい。

- (20) 国語の授業内容はよくわかりますか 90.6⇒90.6⇒90.9%  
(21) 算数の授業内容はよくわかりますか 82.3⇒80.1⇒80.9%  
(22) 理科の授業内容はよくわかりますか 99.1%

授業内容がわかる子の割合は、国語は9割となっている。しかし、算数については8割である。タブレット端末の活用により、個人の理解状況にあった課題への取り組みや学習意欲の向上を図るとともに、児童の学力向上に繋がるような、どの子もわかる授業づくりを目指し教師の授業改善にも努めたい。

今年度より、理科についての項目を設けた。理科については、わかる子の割合が99.1%と非常に高くなっている。これは、実験や観察を通して、理解が深まり、学習内容の定着が図られているのではないかと考えられる。今後も、実験や観察を重視した学習を進めていきたい。

- (10) 先生や友達の話や意見を最後まで聞くことができる 91.7⇒93.6⇒93.2%

学力向上プランでも「聞くことができる」ということを目標に掲げてきたが、聞くことについて、約9割と比較的高い値となっており、「聞く」という姿勢が浸透しつつある。引き続き「聞き方名人」での指導や、最後まで話を聞くことが苦手な児童への指導など、聞くことの大切さについて今後も指導に取り組んでいきたい。

- (12) 友達の前で自分の考えや意見を発表している 79.0⇒75.4⇒74.7%

- (18) 自分の考えを説明したり、文章を書いたりすることは得意だ 58.1⇒57.3⇒67.9%

授業の中に、自分の考えや意見を発表する機会を多く取り入れるようにしており、児童もそうした活動に慣れてきている。書くことについても、各教科の中に「書く活動」を多く取り入れ考えをまとめさせるようにしている。じっくりと「書く活動」に取り組む時間を確保してきた。「得意」と答える児童が増え、そういった取り組みが成果をあげつつある。今後も、自分の考えを説明したり文章を書いたりすることが得意といえる児童を育てていきたい。

- (14) そうじをきちんとしたり、机やロッカーの整理ができていますか。 88.3⇒87.7%

約9割の児童が、清掃活動や身の回りの整理整頓ができていると答えている。これからも、身の回りの環境を整えることの快適さや大切さを伝えていきたい。

- (15) 先生は、自分のよさをわかってくれていると思いますか。 80.1⇒81.4%

- (16) 先生は、困ったときに相談にのってくれますか。 87.1⇒90.1%

教師と児童の関係性としては、8割を超える児童が良好な関係を構築しているととらえている。これからも、一人一人の児童に心を配り、信頼関係をさらに構築していけるようにしたい。

- (22) 元気なときは自分で歩いて学校へ来ている 77.9⇒82.8⇒82.1%

全校の4～5人に1人が車の送迎で登校している状況である。全ての保護者に、健康増進・体力向上に向けての徒歩通学への理解、協力を求めたいところではあるが家庭の事情や不審者対応の面から難しい。学校周辺の通学路の安全面から、保護者には学校から離れたところでの車の乗降を呼びかけ、少しでも児童の歩く距離を伸ばせるよう協力をお願いしていきたい。